

第2回みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議 議事録

日 時：令和6年3月26日（火）

14時30分～16時00分

場 所：県民会館5階 509会議室

1 挨拶

2 出席者紹介

3 情報提供

- （1）令和5年度利用促進事業の結果報告について
- （2）新保小学校インクルーシブ特別授業に関する報告について
- （3）富山県インクルーシブ遊具 MAP について
- （4）ユニバーサルトイレ新築工事について

4 意見交換

●ユニバーサルトイレ新築工事について

委員：カームダウン室の必要性はあまり世の中に知られていない。この施設のニーズを知ってもらうために部屋の説明に補足が必要。

公園に来ても場の雰囲気に慣れるまで時間を要することもある。そのような子どもたちがいるということを認知してもらうきっかけになれば良い。

事務局：カームダウン室の説明内容について、様々な文言を試しながら設置できるよう汎用性のあるサインとすればよいのではないかと。

新保小学校の子どもたちの利用も多いので、学校でもカームダウン室の必要性について説明していただけるとありがたい。

委員：カームダウン室を実際に利用してもらうため、ハード面の整備だけでなく、ソフト面からもサポートが必要と考える。カームダウン室を実際に利用したことがある方の感想をリサーチしておけば良い。

また、使用中は外から見てもわかるように表示できるものがあれば良い。

●その他の内容について

委員：3/24に開催されたインクルーシブ防災DAYの参加者から以下のような意見があった。

- ・かなり人が多く、整理体制が整っていなかった。対応してくれる職員がいなかった。
- ・多動の子どもたちに対しては優しくない公園。参加者が多く、障がいのある子どもたちは楽しめていなかった。動きの激しい子もいる中でよく事故が起こらなかったと思う。

このようなイベントを企画する際には、障がいのある子を持った親に相談してはどうか。

事務局：当事者の方々が安心できるようなイベントを企画していきたい。

委員：新保小学校で実施いただいた富山大学の出前授業後、担任に授業の感想を聞いたところ、コロナ禍で育ってきた子どもたちであったため人とのコミュニケーションの取り方がわからなかったが、インクルーシブに関する授業を受けてようやく人のことを考えたり、助けたりできるようになったと言っていた。他にも、車いすや便利グッズ体験を通して障がいのあることは大変なことだと実感していた

子どもたちは、誰にどのような配慮が必要かということを失敗しながら学んでいる。もし公園内で危ない遊びをしている児童がいた場合は遠慮なく注意し、子どもたちに学びの機会を与えてほしい。

●現在の施設の改善点について

委員：インクルーシブDAYに参加してみて、パネル遊具が人気。音が鳴るなど感覚的に遊べる遊具がもっとあれば良い。

委員：インクルーシブな広場は、障がいの有無にかかわらず誰でも楽しめる広場という観点から、幼い子どもの五感を刺激するような遊具を設置すれば良いと考える。

また、インクルーシブな広場はユニバーサルデザインに配慮すると難易度の低い遊具ばかりになりがち。年の離れた兄弟で遊びに来て楽しい広場になるように難易度の高い遊具も必要。

いろんな年齢層を対象にした遊具を設置することで、遊具の遊び方を教え合うなど多世代の交流ができるよう遊具の難易度の幅を広げることが大切。子どもたちの遊び方に合わせて人が分散し、混雑緩和にもつながる。

健康器具を設置することで、高齢者と子どもが交流できる場にもなる。

委員：夏の間だけでも遊具の暑さ対策が必要。

事務局：昨年テントを購入したので、夏にはテントを設置しインクルーシブひろば内に休憩できるスペースをつくることを考えている。

●今後の進め方について

事務局：今後の進め方として、インクルーシブ DAY は引き続き定期的を開催することを予定している。また各委員の方や団体とも協力し、新しい取り組みやイベント等開催していきたい。そのため、本会議についてもインクルーシブに関する取り組みを報告、共有する場として今後も1年に1回程度開催することを考えている。開催時期については2月上旬から中旬ごろを予定している。

委員：異議なし

5. 閉会

以上